

## 分科会 9 概要報告書

分科会名	分科会 9 「ポジティブ・オフ」でイクメンしよう！		
実施日	平成 24 年 2 月 18 日 (土)	実施時間	13:00 - 14:30
会場	石楠花 1. 2	参加人数	56 人
登壇者	ファザーリング・ジャパン 理事 川島 高之 株式会社イチネンホールディングス 社長室 山田 裕士 西日本旅客鉄道株式会社 運輸部車掌課 石浦 大義 ネスレ日本株式会社 財務管理本部ビジネスサポートサービス部 山口 博史 ネスレ日本株式会社 人事総務本部 エンプロイリレーション&リソースマネジメント部 森 貞律 観光庁観光経済担当参事官付課長補佐 清瀬 一浩		

### 概要報告書

#### 1. 観光庁清瀬より「ポジティブ・オフ」運動の概要と分科会の進め方について説明

「ポジティブ・オフ」は、休暇を取得して外出や旅行などを楽しむことを積極的に促進し、休暇（オフ）を前向き（ポジティブ）にとらえて楽しもう、という運動で昨年 7 月より開始。休暇を取得しやすい職場環境や雰囲気を整えていくこと、外出・旅行を通じて地域、経済、社会の活性化に貢献すること、そしてワーク・ライフ・バランスや休暇を楽しむ豊かなライフスタイルの実現を目的として、観光庁、内閣府、厚生労働省、経済産業省が共同して提唱・推進している。分科会当日時点で 131 企業・団体に賛同頂いている。

本日は、「ポジティブ・オフ」運動に賛同頂いている各企業様の従業員の方が、「オフ」をどのように育児にいかしているのか伺いたい。また、人事や専門家の方からの意見も伺いたい。

#### 2. イクメン社員の各登壇者様の「オフの過ごし方」のご紹介

(イチネンホールディングス 山田様)

お子さんは 2 歳。7 月に第 2 子出産予定。共働きで、お子様は 1 歳より保育園に入園。育児は奥様と半々程度で分担。定時で退社するように努めているが、19 時くらいに帰宅。家事は 22 時くらいまでかかるので、奥様との分担が重要。

会社として子育て支援に力を入れている。第 3 子以降は 100 万円支給する制度がある。休みやすい職場の雰囲気づくりや仕事の共有化が出来ているので、お子様の急な発熱などにも対応でき、育児をしやすい環境だと思う。

「オフ」は会社のテニス部に参加。仕事以外での付き合いが出来ることで、社内のコミュニケーションも円滑化。

育児に積極的にかかわることで、子どもの成長が目に見えて充実感がある。

(西日本旅客鉄道株式会社 石浦様)

お子様は 3 人の男の子。共働き。イクメンしよう、ポジティブ・オフしよう、と意識したわけではないが、結果的にそのようになった。

現在、本社勤務で、土日・祝日が休み。会社として、失効した年休を積み立てられる「保存休暇」があり、育児に使える。看護休暇は日数制限なしで付与。

お子様が 3 人とも野球をやっているなので、休日は野球の試合観戦などに費やしている。普段の生活では子どもの成長を感じる事が難しいことがあるが、野球では急に成長したと分かる瞬間がある。この

ため、自分自身も野球にはまった。

夏は家族旅行、秋はアドベンチャーワールド、冬は香住への旅行もして、子どもの成長を実感するとともに、両親への感謝の気持ちを表している。

(ネスレ日本株式会社 山口様)

2歳1カ月の娘さんがいる。会社は、節電を契機に19時消灯運動を開始。子育ての時間も捻出しやすくなった。計画年休の制度もある。周囲の理解もあり育児休暇を5日取ったので、イントラネットで「イクメンの山口さん」と紹介されている。奥様からも感謝された。

iPhone、iPadを活用して隙間時間を効率的に過ごし、子育ての時間を作るようにしている。

### 3. ネスレ日本 森様より、企業（人事担当）から見た「良いオフ」の過ごし方のご説明

栄養・健康・ウェルネスをリードする企業を目指しているが、その前提として従業員が栄養で満たされ、健康でウェルネスが実現している必要があると考えている。従業員こそが一番大事な資産。働くことに喜びを感じられる職場環境の実現が重要で、それにより、より高いパフォーマンスが実現できる。仕事と私生活の両方の充実が必要で、2009年からはコアタイムの廃止やフレキシブルなランチタイム、「週末は金曜日の6時から始まる」キャンペーン等、2010年からは、男性の育児休暇や在宅勤務制度導入等様々な制度改善を実施している。

夜の消灯を早めるなど残業削減に努めているが、業績への影響は無い。タイムマネジメントの意識が高まったのだと思う。

会社の成長と従業員の成長どちらも重視しており、その中でワーク・ライフ・バランスの実現は欠かせないもの。社員により賢い働き方をしてもらい、ポジティブ・オフに継続的にチャレンジしてもらい、働く時間の長さではなく、どのような成果をもたらしたかにより社員を評価する、ということをやりたい。「オフ」を取って視野を広げることで、次の仕事にもつながってくると思う。

### 4. 川島様より、有識者からの見地によるイクメンと「ポジティブ・オフ」の関係についてのご説明

FJの会員のお父さん方は、皆意識しないで「ポジティブ・オフ」を実現していると思う。

これからは「イクメン」だけでなく、自分の得意なことを地域活動にも活かしていく「イクメン」も実現して欲しい。保育園、学校でのPTA、親父の会なども良い機会。会社以外の世界に触れることで、視野が広がる。地域の子供たちと会話もして、コミュニケーション能力・仕事力も磨かれる。

肩書の無い地元の親父たちの友達を作ってもらいたい。様々に話題も広がる。お父さんが地域に参加することで、「地域力」（防犯・安全等）も高まる。

### 5. 登壇者全員による「イクメン」及び「ポジティブ・オフ」に関するパネルディスカッション

(ネスレ日本株式会社 森様)

同質な者の中では同質なものしか生まれないのだと思う。多様な経験により会社でも異なるアイデアが出る。

(株式会社イチネンホールディングス 山田様)

テニス部での経験も会社の仕事に役立てていると思う。全体を見ながら仕事ができるようになる。

(FJ理事 川島様)

地域参加は、マネジメント力が付くということ。特にPTAで感じる。多様な意見の中でまとめあげる力が付く。

(西日本旅客鉄道株式会社 石浦様)

野球について子どもをしかるに当たっても、試合を実際見て子どもに向き合う方が説得力がある。

(ネスレ日本株式会社 山口様)

仕事と子育ての両立のため、隙間時間の活用を重視している。クラウドを活用している。

(会場から質問)

男性が育児に参加することで消費に与える影響は？

(F J 理事 川島様)

男性の消費傾向として、やや高いものが売れるようになると思う。お父さんが休めるからということで、旅行も増えると思う。内需拡大に役立つのではないかな。

(ネスレ日本株式会社 森様)

ネスレ日本としては、現在は 8 割以上が女性のお客様。男性が商品を購入するようになる、プロモーションも変わってくると思う。

(まとめ)

イクメンへのきっかけとして「ポジティブ・オフ」を使ってもらいたい。「ポジティブ・オフ」で経済も活性化し、充実した生活を過ごせる社会を目指したい。